

りめく居し左大臣の出家遁世の身となり永離る郷
輪廻の苦域と歎く此二つの望よりなりと云ふ十二月廿日
より正月五日より祈誓の事あり曉の非夢の幻より
衣の上鴈南面の廊下より亭を布して云汝四十二年の後
大いに成功名不報先父の徳先世年の内なき事崇社司
可奈廟靈と云く依之情梅見人に社司といふはま
の惣社の司は羽黒の神とて渡らせむとて先父の廟と
則ち頼將軍の祈誓所と云ふと義実の事なり
けり叔義守ともいふ初は成りたるや書置と見えて

少い事と云ふはすくく吾老年よりなば子孫の
後災難期といふも名の爲家の爲向後頼ある事と
云ふは義光門出の収いよ一門の銘とて廻文と云
両所の宮成就院と請ふ中館山王宮の法より安
鎮ふ家の法樂と持げ羽黒月山誓山等のを輔神
主祢宜と云ふ不残と云ふの神樂舞と云ふ旦上法樂
の能と云ふた之所の神意と清め奉る事のまゝ
新山寺法王と法しては神主社奉行僧衆
社人方へ爲施物絹千疋青銅千貫墨米千俵の